

ISO 15189 未取得施設から取得施設へ転職した臨床検査技師視点で考える

◎高橋 雄大¹⁾
長崎大学病院¹⁾

【はじめに】

ISO 15189 とは臨床検査技師の皆さんにとってどのようなイメージをお持ちだろうか？これは取得しているかそうでないか立場によって大きく異なるものだと思う。私の場合、ISO 15189 未取得施設で 20 年数年程度勤務をしていた。その頃のイメージは ISO 15189 とはデスクワークや煩雑な手順が増え、大変。ある程度の大規模施設のみの問題で、あまり関心を示したことがなかったのが本音である。

【中小規模民間病院における臨床検査室の運営】

私の経験した ISO 15189 未取得の中小規模病院の臨床検査室にも当然ながら管理体制はきちんと存在する。臨床検査室が病院の組織の中の一つとして病院運営、チーム医療などに関わり、内部外部それぞれの精度管理に参加し、スタッフ教育も行われる。臨床検査適正化委員会など業務改善の仕組みも存在する。臨床検査技師はそれぞれの施設が求める業務内容を遂行できるよう目標をもって病院の医療を支えるよう役割を果たしていた。

ただし、主に中堅以上のスタッフが中心であって、規模によっては一部管理職のみの業務であったイメージもある。

【結論】

ISO 15189 は負担か？メリットと感じるか？ これは負担はある程度大きいが、メリットはさらに大きいと感じる。ISO 15189 を通じ、スタッフ全員が検査室運営に関わることで、スタッフの意識の向上・スタッフ間のコミュニケーションの向上が期待できる。検査結果の質の維持向上につながっている。以上のことから私の視点では最も重要なのは顧客（患者、医師、メディカルなど）にとってメリットがある点であると考える。

長崎大学病院検査部 連絡先 095-8719-7200 内線（7415） 高橋 雄大